

教育研究業績書

2024年5月1日

氏名 中澤美弥

研究分野	学位	
看護学	学士(人間学・武蔵野大学) 修士(看護学・目白大学大学院)	
研究内容のキーワード		
老年看護学, 在宅看護, 看護管理, 看護政策・行政		
教育上の能力に関する事項		
事 項	年 月 日	概 要
1. 教育方法の実践 ・ 予習レポートによる動機づけおよび双方向授業の展開 ・ 看護実践能力強化のための実習指導設計	平成30年4月～現在に至る	「在宅看護支援論」3年生に対し在宅療養者と家族に対する看護過程の展開について臨床の知見を活かし実践した。 「老年看護支援論」 2年生に対し、「うつ・せん妄のある高齢者に対する看護支援」「摂食嚥下障害のある高齢者の看護支援」「排泄障害のある高齢者の看護支援」について、臨床の知見を活用し事例、動画を活用し授業を設計した。 「基礎看護実習」 1年生に対し対象のための援助者として働きかけられるよう指導した。 「看護援助実習」 2年生に対し自身の看護実践を振り返り看護者としての課題、看護者としての役割について考えられるよう指導した。 「老年看護学実習」「在宅看護学実習」「成人看護学実習Ⅱ」 3年生に対して、療養の場を限定せずに自らの課題や看護者としての役割を考え行動できるよう指導した。COVID-19禍においては、ICT等を活用し学生の学びの継続を維持することができた。
	平成30年4月～現在に至る	老年看護支援論「うつ・せん妄状態をもつ高齢者の支援」「高齢者の食生活への支援方法」「高齢者のスキンケアと清潔への支援方法」「高齢者の排泄への支援方法」講義資料、自己学習ノートの作成。講義時は、パワーポイント資料を作成し履修学生の興味を引き出した。 ・ 「老年看護学看護過程の展開」用の事例動画を作成した。 ・ 「老年看護学看護過程の展開」を看護学部3年生に対し7コマ担当した。ジグソー法を用いてグループワークの指導をした。ジグソー法は本学部本領域初の試みであったが、「この授業は理解しやすかった」などの学生からの評価が得られた。 老年看護学実習事前課題としてワークブックを作成した。アセスメントの視点になり実習を展開していく上で役に立ったという学生評価が得られた。
2. 作成した教科書、教材 ・ 講義用資料の作成 ・ 看護過程事例の作成 ・ 老年看護学実習資料の作成 学生による授業評価	平成30年4月～現在に至る	老年看護支援論「うつ・せん妄状態をもつ高齢者の支援」「高齢者の食生活への支援方法」「高齢者のスキンケアと清潔への支援方法」「高齢者の排泄への支援方法」講義資料、自己学習ノートの作成。講義時は、パワーポイント資料を作成し履修学生の興味を引き出した。 ・ 「老年看護学看護過程の展開」用の事例動画を作成した。 ・ 「老年看護学看護過程の展開」を看護学部3年生に対し7コマ担当した。ジグソー法を用いてグループワークの指導をした。ジグソー法は本学部本領域初の試みであったが、「この授業は理解しやすかった」などの学生からの評価が得られた。 老年看護学実習事前課題としてワークブックを作成した。アセスメントの視点になり実習を展開していく上で役に立ったという学生評価が得られた。
	令和1年4月～現在に至る	老年看護支援論「うつ・せん妄状態をもつ高齢者の支援」「高齢者の食生活への支援方法」「高齢者のスキンケアと清潔への支援方法」「高齢者の排泄への支援方法」講義資料、自己学習ノートの作成。講義時は、パワーポイント資料を作成し履修学生の興味を引き出した。 ・ 「老年看護学看護過程の展開」用の事例動画を作成した。 ・ 「老年看護学看護過程の展開」を看護学部3年生に対し7コマ担当した。ジグソー法を用いてグループワークの指導をした。ジグソー法は本学部本領域初の試みであったが、「この授業は理解しやすかった」などの学生からの評価が得られた。 老年看護学実習事前課題としてワークブックを作成した。アセスメントの視点になり実習を展開していく上で役に立ったという学生評価が得られた。
	令和3年4月～現在に至る	老年看護学実習事前課題としてワークブックを作成した。アセスメントの視点になり実習を展開していく上で役に立ったという学生評価が得られた。
	平成30年4月～現在に至る	質問項目全てにおいて、平均とかけ離れた結果は無かった。令和2年度以降は、COVID-19の影響を受けながらも、ICTを活用あるいは時間短縮の中においても目標達成ができた。自由記述には、教員に対して「話しやすく、質問しやすかった。」「臨床経験が聴けて参考になった」とあった。
3. 実務の経験を有する者についての特記事項 ボランティア活動指導の実績 実習指導実績 高等学校での教育実績	平成14年～平成18年	特養施設におけるボランティア活動受け入れを開始するにあたり、地域住民に対して、高齢者理解についてのコミュニケーション技術、加齢的な変化への理解、認知症の理解について講義した。
	平成21年～平成30年	急性期病院における臨床実習において、看護学部学生への実習指導にあたった。
	令和2年12月	看護師に興味のある高校生に対して看護学部についての出前授業にあたった。 ・ 叡明高等学校2年生 ・ 東村山高等学校1年生

埼玉県看護協会 「看護への道」	令和5年5月 令和6年5月	・看護職への希望を持つ高校生に対して進路説明、本学の特徴を伝えた。 ・看護職への希望を持つ高校生に対して登壇し全体に向け大学看護学部の特徴を説明した。		
職務上の実績に関する事項				
事項	年月日	概要		
1. 資格, 免許等 看護師免許		登録番号 第562160号		
2. 所属学会 日本看護学会 日本看護管理学会 日本看護科学学会 日本看護学教育学会 日本看護技術学会	平成28年4月～ 平成29年4月～ 平成30年4月～ 令和4年4月～ 令和4年4月～			
3. 実務の経験を有する者についての特記事項 東京都内大学病院 急性期病院(350床以上) 訪問看護ステーション 特別養護老人ホーム	1986年4月～2018年3月	臨床看護師として実務経験あり。		
(様式2)				
研究業績等に関する事項				
著書, 学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(学術論文) 潜在看護職が望む復職支援研修に関する検討— 一研修実施率と受講者の要望度の関係—	単著	平成30年3月	目白大学大学院看護学研究科 修士論文	看護職の資格を持ち現在就業していない潜在看護職は推定約71万人いるといわれている。潜在看護職の復職は、看護職確保の有効な方策の一つである。47都道府県ナースセンターにて実施している復職支援研修の期待は大きい。研修を実施しているナースセンターと受講した受講生を調査対象とし研修の実態と求められている受講内容を明らかにするため調査した。その結果、受講生は、離職期間が長いほど医療の高度化への対応への懸念から復職に躊躇していることからより高度な看護技術に対する研修を望んでいた。
(学会発表, 講演など) 潜在看護職が望む復職支援研修に関する検討— 一研修実施率と受講者の要望度の関係—	単著	令和4年8月	日本看護学教育学会 第32回学術集会講演集 P. 191 (2022. 08)	
腹臥位保持が困難な重症患者のためのクッション開発とその介護方法の探求	共著	令和4年10月	日本看護技術学会学術集会講演 抄録集20回P. 90 (2022. 10)	ワークショップを通して腹臥位困難な重症患者のための腹臥位クッションの開発とその介助方法を探求することを目的に、業者、急性期病院看護師の協力のもと開発された腹臥位クッションを用いた患者・介護者双方に苦痛を生じない介助方法について考察した。